

さけ稚魚の海水移行（松岩）について

■人工ふ化放流事業におけるさけ稚魚は、河川放流後、数日をかけて降海し、沿岸域でさらに数週間を過ごした後、外洋へと旅立ち、概ね4年後生まれた河川（放流河川）へ回帰します。

■松岩海中飼育事業は、海水で1ヶ月程度の飼育となりますが、外敵（鳥類・魚類等）の食害による初期減耗の抑制、ふ化場での一極集中飼育におけるリスク分散、海水飼育における成長促進の観点から、昭和52年より実施しており、今回で39回目となります。

■松岩海中飼育事業の実施個所は、母川回帰率向上を図るため、河川水の影響を受けやすい、松崎前浜地先とします。

■本地域沿岸漁業にとって貴重なさけ資源の確保を図るため、さけ稚魚の海中飼育を実施することにより、回帰率の向上に努めます。

【さけ稚魚の海水移行（松岩）の概要】

- 日時 平成28年2月18日（木）午前9時30分から
※当日は乗船等の準備がありますので、午前9時15分までに下記の場所に集合願います。
- 場所 気仙沼漁港前浜地区（気仙沼市松崎前浜地内）
※気仙沼鮭漁業生産組合ふ化場（気仙沼市柳沢7-1）からの稚魚搬出作業は、当日午前8時50分から開始する予定です。
- 放流尾数 約120万尾
※体重0.64g/尾（平成28年2月8日測定）
- 事業主体 気仙沼大川水系さけます増殖協会（事務局：産業部水産課）
会長 気仙沼市長 菅原 茂
- 実施主体 宮城県漁業協同組合、気仙沼鮭漁業生産組合
- その他 当日の海面状況等により延期することとなった場合は、幹事連絡によりお知らせします。